様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １６ 日現在

機関番号：２７１０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５２０７６６

研究課題名（和文）日本近世・近代における砂糖の社会史

研究課題名（英文）Sugar in the Society of Modern Japan

研究代表者
八百　啓介（Yao, Keisuke）

北九州市立大学・文学部・教授

研究者番号：２０２１２２６９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,100,000円

研究成果の概要（和文）：16～19世紀の我が国に砂糖食文化を伝えたポルトガル、オランダの当時の料理書を発掘し江戸時代の料理書・菓子製法書との比較を行った。また江戸時代の大坂・江戸における砂糖の流通に関する史料の調査を行った。
さらに近代の我が国における砂糖食文化・菓子文化に果たした植民地期台湾の役割を考察するために、台湾の研究者との共同研究を行った。具体的には旧台湾糖業連合会、旧台湾総督府の関係資料を国内・台湾において調査するとともに、戦前期の台湾における菓子業の発展と佐賀県出身者による台湾進出との関係の調査を行った。さらに戦前期に台湾産砂糖の国内移入の拠点であった門司における大里製糖所について新聞記事の調査を行った。

研究成果の概要（英文）：I reseached on Portuguese and Netherlands' cookbook of the 16-18th centuries to compare with Japanese cookbook of the Edo period. And I also researched on the materials about sugar distribution from Osaka to Edo in the Edo period. Furthermore, I researched on the microfilms of the former Taiwan Sugar Industrial Association and the the former Governor-General of Taiwan to examine the roles of Taiwan in the development of food culture of sugar i modern Japan. And I researched on several famous confectioners in Taiwan with a collaborator in Taiwan to examine the influnece of Japanese confectioners in the development of confectionery and sugar industries in Taiwan as well as I researched on the newspapers of HOKUZAN KORON to examine the development of the emiglation from Saga Prefecture to Taiwan in modern period.  And I also researched on the articles newspapaer MOJI SHINPOU to examine the development of sugar refinery in Moji in modern period.

研究分野：日本史

キーワード：砂糖　菓子　食文化　台湾　佐賀　新高製菓　長崎貿易　門司

## Ⅰ．研究開始当初の背景

本研究課題の研究代表者は、長年にわたり17-19 世紀江戸時代の長崎におけるオランダ船・唐船貿易とりわけ砂糖の輸入に関する年次的数量研究を行ってきたが、近年は近世から近代にかけての北部九州における菓子文化と長崎との関係を研究する中で、次の研究段階として(1)世界史的視野での我が国の砂糖の歴史の研究、(2)近世のみならず近代にいたる社会の発展の中での砂糖の普及についての研究、(3)文献のみならず地元の研究者との連携による聞き取り調査、(4)研究機関以外での業務の傍ら地道な研究を行っているにもかかわらず研究成果の取りまとめや十分な調査の機会に恵まれない地元研究者との連携、の必要性を痛感したことから、本研究課題を着想するとともにポルトガル国立図書館（Biblioteca Nacional Portugal）、台湾中央研究院台湾史研究所・民族史研究所、大阪商業大学商業史博物館佐古文書の予備調査を行った。

## ２．研究の目的

本研究課題は、16 世紀のわが国にポルトガル人によってヨーロッパの砂糖食文化が持ち込まれて以来、近世から近代にいたる我が国の社会の発展の中で砂糖と菓子文化がどのように普及し大衆化していったのかを、(1)江戸時代の砂糖の普及を明らかにするため日欧料理書の比較によってヨーロッパにおける砂糖食文化の普及と比較する、(2)江戸時代の砂糖食・菓子文化が砂糖の輸入された長崎を中心として広がったように近代になって砂糖の主要な供給地となった植民地期台湾における製糖業の発展と我が国における菓子文化の近代化との関係を明治 38 年（1905）に佐賀県出身者によって台北に創業され戦前四代菓子メーカーの一つとなった新高製菓を中心として明らかにする、(3)日清戦争により台湾がわが国に割譲された明治 28 年（1895）に神戸・台湾（基隆）航路の中継港となった後、明治 37 年（1904）に鈴木商店により大里製糖所が創業されたことにより近代における北部九州の砂糖の窓口であった門司が台湾産砂糖の国内への流通と北部九州の産業社会における菓子文化の発展に果たした役割を明らかにする、(4)本研究課題の成果を論文等の学術的成果のみならず博物館における展示などの地域社会において発表する、という 4 点を目的とした。

## ３．研究の方法

上記の目的を果たすため、本研究課題は(1)16～19 世紀のポルトガル・オランダの料理書の歴史から我が国に西洋の砂糖食文化をもたらしたオランダ・ポルトガルにおける砂糖食文化について分析する、(2)江戸時代の料理書から我が国における砂糖の食文化への普及を分析する、(3)旧台湾糖業連合会関係資料および台湾中央研究院台湾史研究所・民族史研究所および北海道大学に所蔵されている旧台湾総督府臨時糖務局（明治 35 年設立、明治 44 年殖産局糖務課に移行）の関係資料から明治～戦前期の台湾における製糖業の展開と菓子業との関係を分析する、(4)大正～昭和初期に佐賀県旧北山村において刊行された月刊新聞『北山公論』などから海外移住と植民地期台湾の菓子業の発展との関係を分析する、(5)明治～戦前期の新聞である『門司新報』から明治 37 年（1904）に開業した大里製糖所と台湾産砂糖の移入および北部九州の砂糖の流通を分析する、(6)台湾において海外共同研究者と植民地期からの菓子商の聞き取り調査を行う、(7) 連携研究者と協力して北部九州における現地の聞き取り調査を行う、(8)大阪商業大学商業史博物館所蔵佐古文書の砂糖株仲間係資料と国立文学資料館所蔵日本実業史博物館準備室旧蔵史料の砂糖問屋関係資料から江戸時代の大坂・江戸間の砂糖の流通についての分析を行う、という書誌的研究・文献調査・聞き取り調査の多様な研究方法をとることとした。

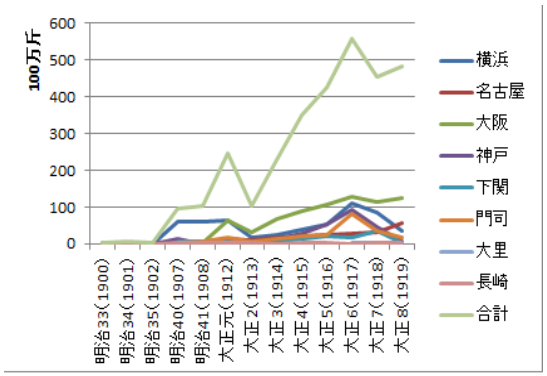
## ４．研究成果

上記の(1) については、ポルトガル国立図書館（Biblioteca Nacional Portugal）所蔵の 18 世紀の料理書の調査を行い、1715 年の写本である Francisco Borges Henriques の菓子製法書、1729 年の写本であるエボラのサンタクララ修道院の料理書ほか 2 点の料理書を調査するとともに、砂糖に関するポルトガル語文献を収集した。またアムステルダム大学図書館（Universiteit van Amsterdam Bibliotheek）所蔵のオランダ語最古の料理書 1593 年刊の Carolus Battus の『医薬書（Medecyn boec）』の付録『料理書（Cocboeck)』をはじめとして、18 世紀のいわゆる台所女（Keuken　meid）本を経て事典（Wooedenboek）までの諸形態の料理書 10 点の調査を行い、ヨーロッパにおける医学書から料理書の流れの意中で砂糖が薬品から砂糖漬けへと変化していく過程の分析を行った。

（2）については『江戸料理本集成』所収の諸本を比較検討し、長崎における砂糖の輸入が拡大する元禄 10 年（1697）刊の『和漢精進料理抄』を初出として享保 15 年（1730）刊の『料理綱目調味抄』から輸入のピークを迎える天明三年（1783）刊の『豆腐百珍続編』までの砂糖の使用を比較分析した。

（3）については、社団法人糖業協会所蔵の台湾総督府発行史料（マイクロフィルム）と台湾中央研究院台湾史研究所図書館・民族史研究所図書館および北海道大学図書館に所蔵されている台湾総督府臨時糖務局時代の「臨時糖務局年報」（明治 35 年-大正 2 年）や殖産局糖務課時代の「糖務年報」（明治 45 年-大正 9 年）、「台湾糖業統計」（大正 3 年-昭和 16 年）などの年次資料や発行物の調査

を行い、これらの残存状況を比較するとともに、明治・大正期の台湾産砂糖の日本国内への移入量を集計した。




(4)については大正 14 年（1925）から昭和 14 年（1939）まで発行されたタブロイド版の月刊誌『北山公論』の記事や求人広告から地元出身の森平太郎が明治 38 年（1905）台湾において創業した新高製菓の台湾・東京・大阪における地元からの従業員の調達に関する史料を収集した。

(5)については大里製糖所が設立された明治 36 年（1903）から大正 8 年（1919）までの『門司新報』の記事・広告を分析して、門司の都市的発展が台湾をはじめとする海外航路の発展とバナナや砂糖の台湾物産の移入の増加にともなっていたことや香港製糖・ジャワ産砂糖と台湾産砂糖との競争が門司の景気にかかわっていたことを明らかとした。

(6)については当初予定していた台北市内の菓子商が事情により調査できなかったため、海外共同研究者である黄紹恒台湾国立交通大学教授および連携研究者である山本長次佐賀大学教授、上野晶子北九州市立自然史歴史博物館学芸員とともに台中市内の寶泉食品（1943 年創業）・玉珍斎（1877 年創業）において創業の由来や植民地時代の日本の菓子商との関係について聞き取り調査を行った。

(7)については、当初の連携研究者が事情により参加できなくなったため(4)とかかわる佐賀県内での聞き取り調査ができなくなったが、海外共同研究者である黄紹恒台湾国立交通大学教授と連携研究者である山本長次佐賀大学教授とともに種子島の黒糖小屋における伝統製法の現地調査を行った。

(8)については、国文学研究資料館所蔵日本実業史博物館準備室旧蔵江戸砂糖問屋関係資料から寛政 7 年（1795）に設立された江戸住吉講が文化 3 年（1806）に砂糖問屋（住吉明徳講）となるまでの「行事順番帳」「規定録」「積金帳」「定法帳」ほか 2 点の関係資料の調査を行った。

これ以外に研究目的の(4)として、2014 年には韓国仁川広域市立博物館において『日本九州と韓国の菓子文化』の企画展示を行い、現在は北九州市立自然史・歴史博物館における常設展示として展示中である。さらに(7)の現地調査に代えて佐賀県伊万里市・小城市を中心とする明治期における菓子商の調査を行い、これに基づき平成 26 年 8 月 2 日佐賀県立博物館において森永エンゼル財団主催「食のフォーラム」に連携研究者 2 名と共に参加し、基調講演を行うとともに図録『生誕 150 年森永太一郎展』を執筆した。

本研究課題の研究成果の多くは未発表であるが、研究成果の(1)(8)を踏まえて『(仮題）江戸時代の砂糖』(2015 年 9 月入稿予定)を執筆中である。

本研究課題の国内外における位置づけおよびインパクトとしては、従来の日本近世・近代史において別個のテーマであった食文化史と社会史を融合させ砂糖の輸入の拡大とに食文化の定着の関係を追った点にあるといえよう。

今後の展望としては、(1)17-18 世紀の日本とヨーロッパの料理書の比較という書誌的研究、(2)台湾総督府臨時糖務局関係資料の網羅的調査という書誌的研究、(3)植民地期台湾における日中菓子文化交流という新たな視点、(4)連携研究者となった山本教授や台湾研究者との共同調査や研究交流は今後植民地期台湾の交通と人的移動や経済発展に関する新たな研究の可能性を示した。

## ５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）

1.Keisuke Yao, The Fundamentally Different Roles of Interpreter in the Ports of Nagasaki and Canton, ITINERARIO, 査読有、37-3, 2013 年 139-150 頁

〔学会発表〕（計 2 件）

1.八百啓介、近世アジアの「境界」としての港市長崎、国際シンポジウム「伝統時代東アジアの辺境機構」、2013 年 8 月 13 日、東国大学校、ソウル（韓国）

2.Keisuke Yao, Sugar Supply and Importation by the Dutch East India Company to Japan during the 18th Century、国際会議 Sugar and Slavery towards a New World History, 2012 年 11 月 18 日、東京大学東洋文文化研究所

〔図書〕（計 7 件）

1.上野晶子ほか 6 名、臨川書店、日蘭関係史をよみとく上巻、2015 年、総ページ数 290 頁、250-284 ページを執筆

2.八百啓介ほか 6 名、臨川書店、日蘭関係史をよみとく下巻、2015 年、総ページ数 256 頁、233-250 ページを執筆

3.山本長次ほか 15 名、クロスカルチャー出版、互恵と国際交流、2014 年、総ページ数 409 頁、351-377 頁を執筆

4.八百啓介・山本長次ほか 5 名、佐賀県立博物館、生誕 150 年森永太一郎展、2014 年、総ページ数 34 頁、24-27 頁を執筆

5.八百啓介ほか 16 名、吉川弘文館、日本の対外関係 5 近世的世界の成立、2013 年、総ページ数 328 頁、160-184 頁を執筆
6.八百啓介ほか 9 名、東アジア歴史財団、東北アジア歴史財団研究叢書 65 伝統時代東アジアの辺境機構、2013 年、総ページ数 394 頁、322-350 頁を執筆
7.八百啓介ほか 14 名、勉誠出版、歴史の中の金銀銅、2013 年、総ページ数 199 頁、41-47 頁を執筆

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
なし

６．研究組織
(1)研究代表者
八百　啓介（YAO, Keisuke）
北九州市立大学・文学部・教授
研究者番号：20212269

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
上野　晶子（UENO, Akiko）
北九州市立自然史歴史博物館・学芸員
研究者番号： 50455565
山本　長次（YAMAMOTO, Choji）
佐賀大学・経済学部・教授
（平成 26 年度より連携研究者）
研究者番号：70264140